

令和7年度 地域連携推進会議 議事録

日時： 令和8年 2月 25日 11:00 – 12:00

場所： グランディール（千葉県市川市）

参加者：

- 地域代表： 自治会長
- 福祉・経営知見者： Y氏
- 行政担当： 市川市役所 障がい者支援課（2名）
- 利用者側： 入居者本人、ご家族
- 運営側： 斎藤（理事長）、石井（管理者）

1. 開会・会議の目的説明

- 目的： 閉鎖的になりがちなグループホームの運営の透明性を高め、地域や関係者との連携を深めることで、今後の運営改善に役立てる。
- 情報の取り扱い： 個人情報保護のため、会議内容を口頭で外部に流布することは控えること。ただし、透明性確保のため、個人名を除いた議事録を後日ホームページで公表する。

2. 当社グループホームの紹介

- 理念： 「自立することが孤立することにならないよう」、社会や自身の障害との向き合い方を共に考え、自立に向けた成長を支援する。
- 構成： 千葉県市川市宝にて運営している就労継続支援B型事業所のスクラムと連携して運営。現在は女性棟として定員4名（満床）に対し、直接支援員はすべて女性（合計6名）で構成。
- 日常： 平日9時～16時は就労B型にて作業。帰棟後は入浴、洗濯、夕食（19時）など、各々のルーティンで過ごす。週末は多くの利用者が外出や外泊を利用している。

3. 地域との連携・理解の促進

- 近隣状況： 2023年12月の開設以来、警察や救急の出動事例はなく、近隣からの苦情も現状は受けていない。
- 今後の課題： 地域行事への参加が十分ではないため、お祭りや清掃活動など、職員を中心に積極的に参加し、地域との関係性を構築していきたい。自治会長からは、災害時の避難計画や名簿の活用についての言及があった。

4. サービスの透明性・支援の質の確保

- **運営課題：** 外泊が「固定化・週間化」している点が最大の課題。本来の目的である「グループホームでの生活を通じた自立訓練」を進めるため、今年度中に「外泊から外出への切り替え」を段階的に促していく方針。
- **事業継続計画（BCP）：** 震災や感染症発生時の対応計画を策定。家族が近隣に住んでいるケースが多いため、中規模災害時は家族のもとへ送り届けることを基本とし、困難な場合はスクラムと連携して避難生活を送る体制を整えている。

5. 利用者の権利擁護・支援者の指導

- **虐待防止：** 直接的な虐待事案はないが、言葉遣いや感情の載せ方ひとつで利用者が威圧感を感じる可能性があるため、職員研修を徹底している。
- **事故・ヒヤリハット：**
 - **転倒事故：** 階段での滑落事故を受け、滑り止めの貼付を完了。
 - **服薬ミス：** 年間約4件の飲み忘れに対し、訪問看護の導入やお薬カレンダーの設置、目視確認を強化し改善を図っている。
- **本人の意向尊重：** 就労B型への通所方法（送迎から自力通所への挑戦など）について、本人の希望と安全面の妥協点を見つけながら、選択肢を確保している。また、外出や外泊希望に関しても本人の不調具合やご家族の心配事がない限りは、本人の希望に沿うように行っている。

6. 今後の展望

- **透明性の確保：** ホーム内だけの判断で情報が偏らないよう、就労B型、訪問看護、主治医等と随時情報を共有し、運営の透明性を保つ。
- **地域との関係：** 地域の防災訓練や行事を通じ、顔の見える関係性を構築していく。

7. 質疑応答および意見交換（追加分）

- 行政（市役所）からの質問と回答
 - **質問：** 地域活動に参加して障害への理解を広めたいとのことだが、地域住民だけでなく、利用者本人も環境の変化に不安を感じるのではないか。どのような配慮をしているか。
 - **回答：** 地域行事とは属性が異なるが、スクラムの活動として定期的な地域での「販売会」を行っており、地域社会との接点はゼロではない。本人が萎縮しないよう、職員が付き添ってサポートや説明ができる体制で参加することを想定している。

- 自治会長からの意見
 - **地域活動の現状**：自治会としては現在、外回り（交通安全、夜間防犯パトロール）や、夏祭り・餅つきなどのイベントを行っている。
 - **防災面**：要介護者の名簿は把握しているが、具体的にどのような支援を行うかまでは至っていない。イベント会場（公園など）のバリアフリー設備が不十分な面もあるため、今後の課題として考えたい。
- 経営・福祉知見者からの質問と回答
 - **質問**：インフルエンザなどの感染症が発生した際、他の入居者への拡大防止策をどう考えているか。
 - **回答**：一般的に流行している感染症を発症した際は「自宅療養」か「ホームでの療養」かを選択してもらうが、本人およびご家族の意向により、現在は自宅に帰るケースがほとんどである。ホームに留まる場合は、共有部の消毒徹底、トイレの分離（1階と2階の使い分け）、食事の自室提供など、簡易的なゾーニングを行い、感染拡大を防ぐ。
- 保護者の感想：入居して丸2年になるが、本当に楽しく過ごさせていただいている。周囲のペースに合わせるなど行動が早くなり、少し大人になったと感じている。

8. 施設見学

居室はプライベート保護のため除き、キッチン、風呂場、トイレなど共用部を中心にグループホーム内の見学を行う。

次回開催予定：1年後（同時期を予定）